

第2 錦タワーの概要

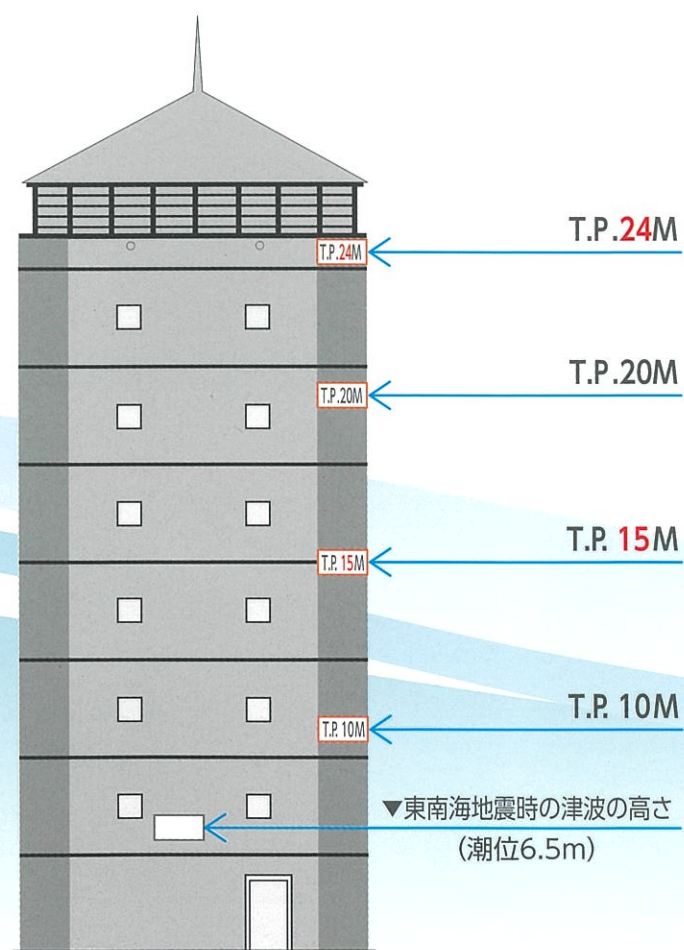
この第2 錦タワーは、平成 10 年度に建設した錦タワーに引き続き、第2の津波避難塔として、地震発生後から数分後に到達するとされる津波に対し、地形的に避難が困難とされる海岸部に近い人口密集地域の住民や隣接する魚市場などで仕事をされている方々の人命救助を図る必要性から建設をいたしました。

東北地方太平洋沖地震により発生した巨大津波を教訓とし、国の機関である中央防災会議が発表した、南海トラフを震源とする巨大地震による新たな津波浸水想定に対処するため、海拔 20m以上の部分を避難階として、最上階では海拔 23.8mの高さとなっており、周辺住民を中心に 500 人程度が避難できるスペースを確保しています。

基礎部分は高い支持力性能を有する先端に羽根が付いた鋼管杭を使用し、タワー本体と一体化して施工することにより、津波による転倒、引抜きから耐えられる構造となっています。建物本体の構造も大地震及び大地震後に発生が予測される津波、また津波による浮遊船舶の衝突などから、建物の機能を保持し人命の安全を確保できるように設計された強固なものとなっています。また、敷地内には 40 m³の耐震性貯水槽が設置されており、家屋が密集している当地域の火災発生時におきましても消火活動の拠点となるべく機能を備えております。

利用形態は、災害時の避難所はもとより、平時は町民の憩いの場として、また非常電源用発電機をはじめ防災資器材の保管備蓄のほか、1 階が消防倉庫、2 階は地区住民の集会室となっています。

■錦タワーの断面図



所在地	三重県度会郡大紀町錦 915-9
建築面積	79.84 m ²
各階概要	1 階 避難口（3ヶ所） 消防倉庫 2 階 台風時の集会室 6 階 津波時の集会室 7 階 津波時の集会室 屋上 避難所スペース（展望所） 総面積 634.53 m ²
収容可能人員	約 500 名
構造	鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
事業期間	平成 24 年度
設計監理	a+s 建築設計事務所
施工	建築・外構工事 株式会社 谷口組

津波災害から生命を守る“安心”の塔

第2 錦タワー

Second Nishiki tower



三重県大紀町

建設内容

The contents of construction



東南海地震

■東南海地震の内容

●尾鷲測候所観測値

発震時初期微動	12月7日 ip13時35分49.8秒
継続時間	S13時35分56.4秒 S波に続いて水平動約5分間ゆるる
南北動	MN13時36分 9.5秒 最大値/M20.5mm
東西動	E13時36分 9.5秒 最大値/17.5mm
上下動	Z13時36分 9.5秒 最大値/ 20.5mm(上下動13.8秒継続)
震動終了時刻	F13時55分 0秒
発震時刻～震動終了時間	19分10.2秒
規模(マグニチュード)	8.0 震度5
震央	北緯33.7° 東経136.2°(志摩半島の南々東約20km)
震源の深さ	海底0～30km

●錦地区被害状況

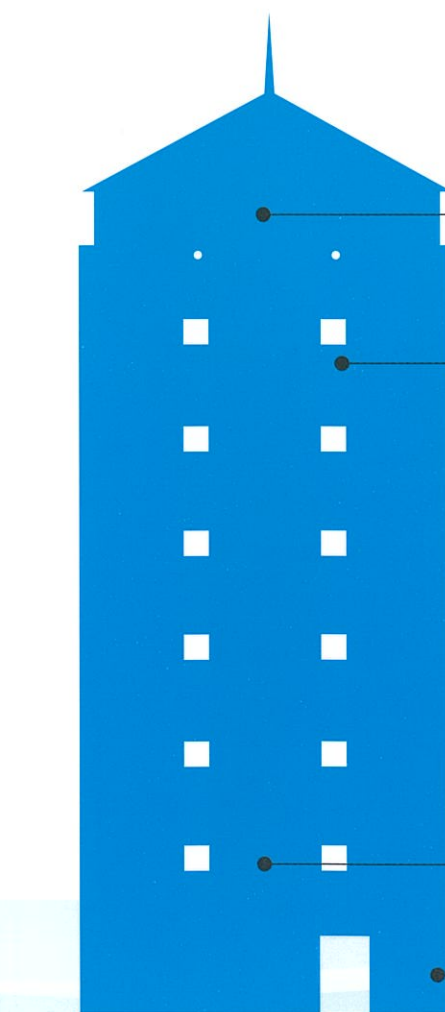
流失全壊家屋	447戸
半壊浸水家屋	235戸
船舶被害	101隻
被害総額	8,040,500円(昭和19年当時の金額)
死者	64名(男23名、女41名)

塩浜山村広場展望台からの眺め



施設のあらまし

The outline of institutions

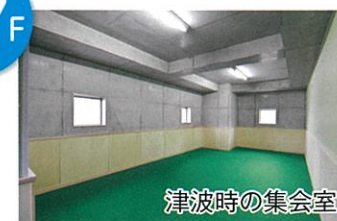


屋上

6.7F

2F

1F



津波時の集会室



台風時の集会室



記念碑



消防倉庫